

サステナビリティ

Sustainability

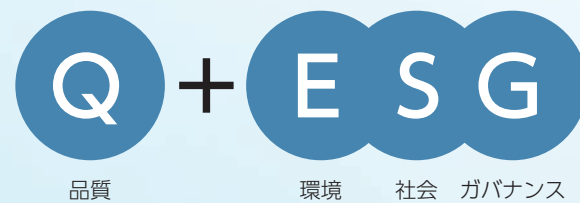
選ばれつつづける企業を目指して

ノーリツグループは70年の歴史の中で時代の進化に合わせ、安全・安心、豊かで快適な暮らしを提供し続けてきました。

私たちはこれからも選ばれつつづける企業として、企業価値を創造していくために、品質(Q)を最重視し、環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)への取り組みを事業活動のベースとしたQ+ESG経営を行っています。

また、「SDGs」(持続可能な開発目標)の中でも、事業活動と特に関わりの深い「No.9」(技術革新の基盤づくり)、「No.12」(つくる責任／つかう責任)、「No.13」(気候変動対策)、「No.17」(パートナーシップ)の、4つのゴールを重視し、新たな価値の提供を目指します。

「幸せ」を創るための基盤



社会・環境長期ビジョン2030

地球環境への責任を果たす



ノーリツグループは環境課題の解決に向け省エネ・省資源で高品質な製品を積極的に開発・販売します。

パートナーシップで成長を目指す



ノーリツグループはパートナー企業様との連携により社会課題を解決し世界中で選ばれ続ける企業へと成長します。

お客さまとともに未来を考える



ノーリツグループはお客さまとともに未来を考えイノベーションを通じてクリーンで快適な生活をお届けします。

マテリアリティ(重要課題)

社会・環境長期ビジョン2030に向けた2023年までの重点課題

2015年のマテリアリティ策定以来、これまでも社会や事業環境の変化に合わせて対応してきました。

2020年には、2030年に向けた「社会・環境長期ビジョン2030」と、2023年に向けた中期経営計画「Vプラン23」の策定を機に、マテリアリティの見直しを行いました。

2030年に向けた目標を達成すべく、2023年をターゲットにQ+ESGの分類で全10テーマのマテリアリティを設定し、Q+ESG戦略として取り組み、社会環境課題と事業課題の融合を目指していきます。

Quality (品質)



お客さまの安全・安心	製品事故ゼロ化
	ダウンタイムゼロ化
技術の世界展開	海外での競争力強化
技術開発	開発投資効率最大化
→P27,28	

Environment (環境)



気候変動対応	CO ₂ 削減(事業活動・製品) 環境配慮型製品の開発 環境配慮型製品の拡販
資源循環型社会の構築	給湯器リサイクル事業の推進 廃棄物削減 物流機能の最適化
→P29-32	

Society (社会)



サプライチェーンマネジメント	CSR調達の促進 新規分野の開拓 既存技術の進化 社会課題解決型商品の提案・拡販
従業員 コミュニケーション	企業風土改革 人材育成(イノベーション) Q+ESGの社内浸透 働き方改革
→P33-36	

Governance (ガバナンス)



コンプライアンス	コンプライアンス意識向上
リスクマネジメント	リスクマネジメントの進化 安定供給
→P37-38	

サステナビリティ

Sustainability Quality

品質

暮らしの安全・安心を守る

ノーリツグループは、「品質を最重視し、一歩先ゆく製品・サービスの提供」をバリューに掲げており、「製品やサービスの品質を高める」

「お客さまの声を事業活動に活かす」この2つを大切に活動しています。

当社の製品は燃焼機器のため、少しの不具合で重大事故につながる可能性があります。

だからこそ、お客さまに毎日の生活で安心してご使用いただけるよう、

品質を第一に取り組みを進めています。



お客さまの安全・安心 — 製品事故ゼロ化

経年劣化による少しの不具合が重大事故につながる可能性があります 安全のための点検実施と早期取り替えを促し、事故ゼロを目指します

■ 「点検お知らせ機能(88)」を搭載

製品の経年劣化による重大事故抑制を目的に設計標準使用期間、もしくはそれに相当する使用回数を超えると、給湯機器のリモコンに「88」または「888」を表示して点検時期をお知らせしています。

点検を受けていただくことで突然の故障を予防し、お客さまに安心してご使用いただくとともに、故障前に余裕を持って、より快適性・経済性に優れた最新機器を選択いただけるようになります。

詳しくはWEBサイトをご確認ください。

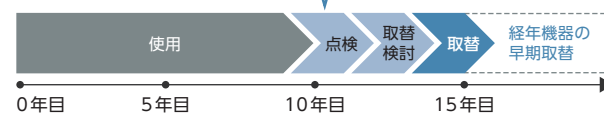
<https://www.noritz.co.jp/info/houtei/tenken.html>



点検お知らせ機能



「88」や「888」を表示して点検時期をお知らせ

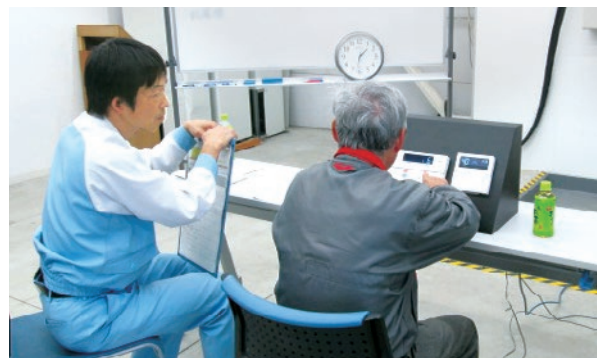


■ お客さま視点での商品性評価へのこだわり

誰もが使いやすいことはもちろん、誤操作での事故をなくすため、発売前の製品を高齢者の方などが評価する「商品性評価」を実施し、クリアしたもののみを製品化しています。

設計品質向上を担う専任部門でも設計段階で第三者評価を行います。使用時の安全・安心にこだわり、お客さま視点による商品性評価を行う専任部門で、高齢者の方などとともにあらゆる事態を想定し、開発設計段階では検出しにくい問題やリスクを抽出・改善しています。

さらなる品質向上と安全・安心、快適な住環境の提供につなげています。



お客さまの安全・安心 — ダウンタイムゼロ化

機器の故障による業務の停止は事業に影響を及ぼします IoT遠隔監視で、故障時に素早く復旧できる保守の拡大を目指します

業務用で使用される給湯器において、これまでは機器の故障の際、リモコンのみにエラー表示がされていたため、すぐに気付かずシステムダウンにつながっていました。IoTで機器を24時間監視し、システムがエラーを検知すると故障情報を自動通知します。国内ではコンタクトセンターへ情報送信、そして海外ではスマートフォンなどの端末にエラー情報が送信されるため、迅速な修理対応が可能になりました。

これにより、機器の故障に伴う業務の停止時間を最小限にとどめることができます。



技術の世界展開 — 海外での競争力強化

ノーリツのものづくり機能を活かして、日本の技術を世界に展開します

海外での競争力を強化していくため、ものづくり機能を集約した「プロダクツ本部」を新設しました。日本国内のものづくりに関連する4部門(研究開発・資材購買・生産・品質保証)を集約したことにより、グローバル本部との意思決定を迅速化します。日本の保有技術を活かして海外現地法人与共同開発などの連携を強化し、さらなる海外事業の拡大を目指します。



技術開発 — 開発効率最大化

人的ミスを防ぐ自動化や部品のモジュラー型開発を促進 より一層の品質確保を目指します

ノーリツグループでは現場ごとに対応する製品を作るため、一つひとつ心をこめて、人の手により組立てを行っています。誰が組み立てても同じ品質を確保することのできる自動化や部品のモジュラー型開発を進め、より一層の品質確保に努めています。



Voice | 品質への思い

設計標準使用期間を過ぎた経年劣化による故障や事故を未然に防止し、全てのお客さまに最後まで「安全・安心」にお湯をご使用いただけるよう、点検・診断することにより製品の安全確認を行っています。

また、お客さま視点による商品性評価を定期的実施し、誰もがリモコンや機器を容易に操作できることや、施工性の評価を行っています。毎日使う製品だからこそ、お客さまの暮らしに笑顔と感動をお届けできる製品品質を目指して、一層の安全性や品質を高め、重大製品事故ゼロを掲げて取り組んでいます。

水田 健司

株式会社ノーリツ
品質保証推進本部
第2品質保証部
部長



サステナビリティ

Sustainability

Environment

環境

きれいな地球を次の世代へ

私たちのミッションは「新しい幸せを、わかすこと。」すなわち、

人と地球の笑顔に向けて暮らしの感動をお届けすることです。

CO₂を排出する温水機器、厨房機器を製造・販売する企業として

CO₂削減を推進し、地球環境保全に貢献することは私たちの責任です。

「きれいな地球を次の世代へ」をスローガンに環境マネジメントシステムを構築し、

地球環境保全活動に積極的に取り組んでいます。



製品と事業活動によるノーリツグループの年間CO₂排出量は、日本のCO₂総排出量の約1.5%にあたります。だからこそ、気候変動対策を重要な課題としています



※1 国立環境研究所温室効果ガスインベントリ日本の温室効果ガス排出データ2019年速報値

ノーリツが製造した製品や、関わった事業活動から排出されるCO₂は年間約1,919万tonにおよび、日本全体の約1.5%を占めることになります。

気候変動対策は、温室効果ガスを排出する機器を製造・販売する企業にとって重要な課題です。環境規制の強化を機会と捉え、バリューチェーン全体を通じて取り組む事が当社の責任であり、経営課題として取り組みを進めています。

気候変動対応 — CO₂削減

製品・事業活動両面で省エネ・省資源への取り組みを強化

2050年に向けたカーボンニュートラル宣言など環境問題への対応が進む中、これまでの活動をさらに加速するため、「エコ・ファーストの約束」を更新し、中期環境目標を掲げました。そして、「RE100」と「TCFD」にも賛同しました。

ガス石油機器業界初となる「RE100」への加盟では、2050年までに海外グループ会社を含む全事業所で使用する電力の再生可能エネルギー100%化を目標としています。

また、2020年も引き続きCDPでB評価を取得しています。



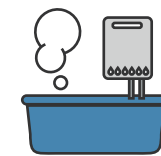
気候変動対応 — CO₂削減／資源循環型社会の構築 — 廃棄物削減

社会・環境長期ビジョン2030に向けた目標

製品を通じた低炭素社会の構築

製品使用によるCO₂排出量を2030年までに

15 % 削減
(2018年度比)



事業活動を通じた低炭素社会の構築

国内事業所によるCO₂排出量を2030年までに

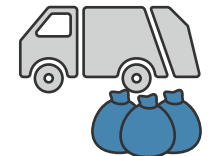
30 % 削減
(2018年度比)



製品・事業活動を通じた資源循環型社会の構築

国内廃棄物発生量を2030年までに

20 % 削減
(2018年度比)



ノーリツグループは、製品を通じたCO₂排出量削減はもちろん、国内生産事業所を中心に、地球温暖化の原因となるCO₂排出量削減、省エネルギー活動、廃棄物の削減と資源循環の推進、環境汚染の予防・防止に、継続的に取り組んでいます。

また流通においても輸送の効率化を図り、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

Voice | 環境対応は企業の責務、環境への配慮がコスト削減に

ノーリツグループの一員として、年間を通じて事業所の省エネプロジェクトを実施しています。ノーリツからSDGsや環境に対する熱い思いを受けて、環境対応は私たちの責務であることをより実感し推進しています。

具体的には、会社方針で掲げたコスト削減に環境視点を取り入れて活動しています。誰もが身近に感じる「コスト(円)」で削減効果を数値化することで、分かりにくい環境への貢献度を見える化しています。

従業員に日頃から意識を高めてもらうため、家庭における環境への取り組みのヒントの提案や省エネグッズの人気投票を行うなど、当事者意識を持つような工夫に努めています。

今後もさらなる運用改善や設備導入を行いながら、省エネに配慮した事業環境を整えていきます。

河野 賢二

信和工業株式会社
企画管理室



サステナビリティ

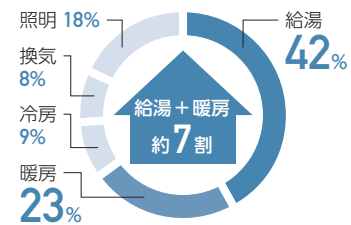
Sustainability Environment

環境

気候変動対応 — 環境配慮型製品の開発

給湯・暖房は家庭で使用するエネルギーの7割を占めます だからこそ、ZEH（ゼッチ）に対応する次世代の製品開発に注力していきます

省エネ基準一次エネルギー消費量割合※1



※1 建築物のエネルギー消費性能に関する技術情報(国立研究開発法人建築研究所 協力:国土交通省国土技術政策総合研究所)によるエネルギー消費性能計算プログラムより(6地域、その他設備を除く)

家庭で使用するエネルギーの約7割が給湯と暖房で使用されています。これらに利用する機器の環境性能を高めることで、室内環境の質を維持しながらも年間の一次エネルギー消費量を大幅に削減することが可能です。

政府は「2020年までにZEHを標準的な新築住宅に」という目標を掲げており、当社でも対応商品として「ハイブリッド給湯・暖房システム」の開発を進めています。また、他社と連携し、ガスから「電気」をつくり、発電時の熱で「お湯」をつくる家庭用燃料電池コージェネレーションシステムの開発にも力を入れ、当社の技術力を活かし貯湯ユニットや補助熱源機の供給を行っています。

当社では、これらZEH対応の商品や高効率ガスふろ給湯器のさらなる普及を目指し、日本の住宅事情に応じたラインアップ展開を進めています。今後も時代のニーズに応じてエネルギー環境の変化に対応した製品開発を進め、CO₂削減に努めていきます。

業界最高レベルの環境性能、ハイブリッド給湯・暖房システム

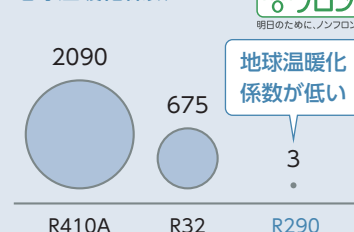
給湯一次エネルギー効率

約**145%**※2



環境に配慮したノンフロン冷媒採用

地球温暖化係数



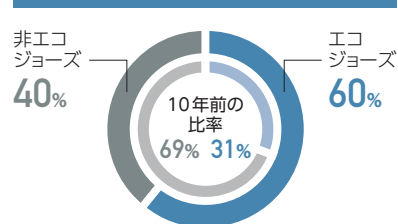
環境に優しいノンフロン冷媒にこだわり、業界で初めて炭化水素系自然冷媒であるR290の導入を実現しました。R290は一般的なヒートポンプに多く使用されている代替フロン冷媒のR410Aと比較すると、少量で地球温暖化に影響を及ぼす係数(GWP)が約1/700(3/2090)であり、また、環境に配慮したエアコンの冷媒であるR32と比較しても1/225(3/675)で、非常に環境性に優れたノンフロン冷媒(自然冷媒)です。

※2 一般財団法人建築環境・省エネルギー機構「住宅事業建築主の判断基準」6地域の条件を参考に当社調べ

気候変動対応 — 環境配慮型製品の拡販

製品使用によるCO₂削減のため、高効率ガスふろ給湯器「エコジョーズ」拡販を推進 省エネルギーでランニングコストを低減する、環境に配慮した製品開発に努めます

10年前と比較し、販売比率3割増



2020年高効率給湯器「エコジョーズ」販売構成比率

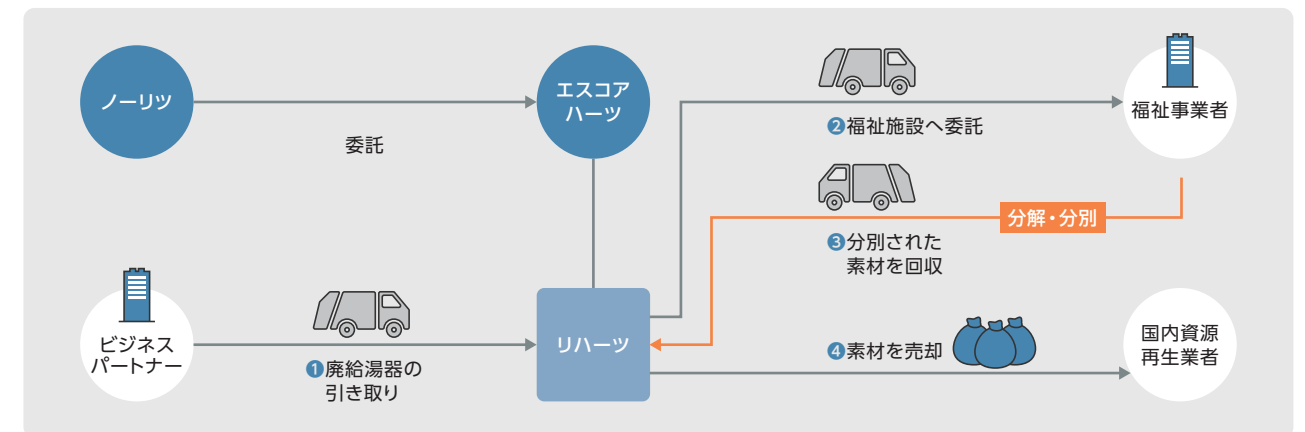
当社では、低炭素社会の実現に向けた取り組みとして、高効率タイプのガス給湯器「エコジョーズ」をデファクトスタンダードにすることを目指してきました。その結果、10年前と比較し、販売比率は3割増加しました。

エコジョーズは少ないガスで効率よくお湯を沸かすことができ、省エネルギーに貢献できる給湯器です。これまで空気中に捨てていたお湯を作る際に発生する高温の熱を利用することで、ガスエネルギーのほとんどをお湯に変える高い技術です。

これからも、ビジネスパートナーと連携して、環境負荷の少ない商品の拡販を進めていきます。

資源循環型社会の構築 — 給湯器リサイクル事業の推進

限りある地球資源だからこそ、使用済みの給湯器も大切に有効活用 リサイクル事業を通じた障がい者自立支援も進めています



ノーリツの特例子会社であるエスコアハーツグループのリハーツでは、障がい者の就労機会の創出と国内資源循環を目指し、給湯器リサイクル事業を進めています。

ビジネスパートナーから使用済みの給湯器を回収し、福祉事業者さまに分解・分別を委託することで、より多くの障がい者の就労機会を創出しています。同時に、国内資源循環を推進することで環境負荷低減にも貢献しています。



※エスコアハーツ：ノーリツの特例子会社
※リハーツ：給湯器リサイクル事業を運営するエスコアハーツのグループ会社

資源循環型社会の構築 — 廃棄物削減・物流機能の最適化

製品ライフサイクル全てが私たちの責任。地球環境保全貢献のため 包装材の3R(Reduce Reuse Recycle)に取り組んでいます

給湯器用緩衝材として使用していた発泡スチロールの代替品として、1998年には古紙を再利用した「テックス」を、2000年にはシュリンクフィルムを用いた省資源「シュリンク包装」を採用してきました。そして2001年からは梱包材を検品・洗浄して再利用できる「リターナブル梱包」を取り入れ、地球環境の保全に努めています。

むぎ茶殻をリサイクルした給湯器用緩衝材(Reduce Recycle)

大手飲料メーカー(株)伊藤園と共同で、むぎ茶飲料生産後のむぎ茶殻をリサイクルした給湯器用緩衝材を開発し、2019年からガス給湯器の梱包材として順次、採用しています。

緩衝材としての機能(固定性と緩衝性)はそのままに、重量を約7%軽量化することを実現し、再資源化と配送時における環境負荷の低減に貢献しています。



むぎ茶殻の緩衝材

サステナビリティ

Sustainability Society

社会

商品・サービスで社会課題を解決する

私たちは「お風呂は人を幸せにする」を創業の原点に、その思いを受け継ぎながら事業活動を進めており、商品・サービスを通じて社会課題解決に努めています。特に高齢化が進む社会で問題となる入浴事故の軽減や、女性の社会進出が進む中で家事の負担軽減など、時代のニーズに応じた商品の提供を進めています。毎日使う商品だからこそ、これからもその時代の社会課題に向き合っていきます。



サプライチェーンマネジメント — CSR 調達の促進

ノーリツグループはすべての仕入先様との連携により社会課題を解決し、世界中で選ばれ続ける企業へと成長します



ノーリツグループは、「トリプルウィン調達」(仕入先様、企業、社会のウィン)を実現するため、最終ブランドメーカーとして、すべての仕入先様と双方向のコミュニケーションを通じて CSR 調達活動に取り組んでいます。

CSR 調達ガイドラインの遵守要請や紛争鉱物調査、仕入先様への SAQ*などを通じ実態把握を行っています。

* 国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン版 SAQ (Self Assessment Questionnaire)

人権尊重の取り組み

事業活動に関わる全ての人々の幸せに向けて

国際基準*をもとに「ノーリツグループ人権方針」を定め、人権尊重に取り組んでいます。全ての方々に安全で安心してノーリツとお付き合いいただけるよう、あらゆるガイドラインや制度の整備、取り組みを行っています。また、従業員への人権教育や社内外の通報窓口の設置など、モニタリングの仕組みも整えています。

* 世界人権宣言、国際人権規約、ILO 中核的労働基準、国連グローバル・コンパクト、国連ビジネスと人権に関する指導原則など

障がい者雇用と自立支援の取り組み

障がいのある従業員が活躍できる職場づくりで、「多様性のある風土づくり」と「企業の社会的責任」を果たしていきます

当社の特例子会社エスコアハーツは2017年から「障害者活躍企業」の認定を受け、さまざまな事業展開で職域・職能を開発し、多数・定着雇用に取り組んでいます。2015年には就労継続支援 A 型事業所として株式会社すまいるハーツも設立しました。また、事業を通じて社会課題を解決することを目的に、障がい者福祉施設に廃給湯器を分解・リサイクルする業務を委託しています。



※障がい者の活躍推進に取り組む国際イニシアチブ「The Valuable 500」に加盟

社会課題解決型商品の開発・普及 — 社会課題解決型商品の提案・拡販

■ 超高齢社会に伴う入浴事故を軽減

交通事故死よりも多い入浴事故死「見まもり機能」で事故を抑制

● 2013 年の入浴中の急死者数推計 19,000 人*



ノーリツが解決!

3つの「見まもり機能」で気づき遅れを防ぎ、事故を抑制



* 台所リモコンのランプでお知らせします。

「浴室モニター」 台所リモコンで浴室への入室状況などを確認
「入浴タイマー」 浴槽につかったことを検知すると自動的に入浴タイマーを開始
「ゆるやか浴」 ゆるやかに追いかけることで温度変化による体への負担を軽減

入浴関連事故の原因として代表的なものは、暖かい部屋から寒い脱衣所・浴室への移動など急激な温度変化によって、血圧が上下に大きく変動することをきっかけに、体に負担がかかる「ヒートショック」と、長湯や高温での入浴により温度感覚が「のぼせ」があります。気づかないうちに倒れてしまい、発見されたときには溺死となっていることが多くあります。

入浴中の急死者数は年々増加傾向にあり、交通事故よりも多く、社会課題として重視されています。

* 入浴関連事故の実態把握及び予防対策に関する研究

■ 感染症拡大による除菌ニーズに対応

99.9%の除菌性能 キレイで安心な入浴を実現します

2020年に発生した「新型コロナウイルス感染症」により、世界的に除菌への意識が高まっています。ノーリツでは99.9%*以上の除菌性能のUV除菌ユニットを搭載したキレイで安心な入浴をサポートする次世代給湯器を開発販売しています。

99.9%
除菌

* 試験機関：衛生微生物研究センター試験番号：28D-BT-019試験方法：UV除菌ユニットを通過前後の試験液の菌数を測定。流量9.5L/min。試験結果：99.9%以上除菌(実使用での実証効果ではありません。使用環境により効果は異なります。)

■ 女性の社会進出に伴う家事負担を軽減

「ラク家事」を提案 誰もが手軽に本格的な調理を

ノーリツの「マルチグリル」はこれまで蓄積した技術と安全・安心のノウハウを応用して誕生しました。お手入れのしやすさのもと、グリル内部にある温度センサー付き下火バーナーで専用容器底面の温度を正確に検知し、メニューに合わせた火加減を自動で調整します(特許取得済)。従来のグリルにはできない多彩な調理が可能になりました。

ノーリツグループは、これからも便利で楽しい「ラク家事」を提案していきます。



Voice | 入浴を深耕し、お風呂の時間をより快適に

生理学や人間工学に基づいた入浴の研究を行っており、ノーリツ社員の中でも、お風呂に入る回数はNo.1です。実際に入浴して体温や血圧などさまざまなデータの計測を行い、健康への影響や、リラックスできる環境など、より快適な空間づくりに向けて日々研究し、新たな開発に繋がっています。特に見まもり機能は、高齢化に伴い増加している入浴事故に対して、「ノーリツとして何かできることはないか」と心を込めて考えました。今後もお風呂を深耕し、創業の原点である「お風呂は人を幸せにする」を体現していきたいです。

古賀 弘子

株式会社ノーリツ
プロダクツ本部
研究開発本部
イノベーションセンター
要素技術研究部
第3研究室



サステナビリティ

Sustainability Society

社会

変革、挑戦、創造できる人材を育てる

当社は、従業員を最も大切な資産として捉え、

一人ひとりが能力を最大限発揮できる環境づくりに努めています。

また、既存事業で収益を上げるだけでなく、

新規事業を育成する“両利きの経営”を実現するため、成長するチームを形成し、

高い成果を出せる人材を輩出する取り組みを進めています。



従業員コミュニケーション — 企業風土改革・人材育成（イノベーション）

次世代の人材がチャレンジできる環境をつくり 新規事業を生み出せる人材を輩出します

ノーリツグループは、「両利きの経営」を実現するため、既存事業での収益確保とあわせ、新規事業を生み出せる人材育成を進めています。一人ひとりが自立して考え、高い成果を出せる人材を輩出する取り組みを行っています。

■ トライアル制度

研究開発本部では、従業員が新たに取り組みたい研究を提案し、提案が通れば、専任で案件に従事できる制度として「トライアル制度」を実施しています。既存事業から脱却した新規事業の確立を進めています。

イノベーションを創出するため、知識を蓄積し、アイデアを共有するイントラサイトも開設しています。



■ プロジェクトN(New Next Noritz)

ノーリツ100周年に向かってノーリツの事業をけん引し、新しい可能性の扉をひらいていくコア人材を育成・強化していくためのプロジェクトを実施しています。選出されたメンバー16名が参加し、新事業を立案しプレゼンを行いました。役員が評価・ディスカッションのうえ、最終審査に残った3チーム6名が役員へ最終プレゼンを行い、事業化に向けた駒を進めます。



従業員コミュニケーション — 働き方改革

コロナ禍でも安全・安心に従業員が働き続けられる環境を インフラ整備やコミュニケーション活性化に向けた取り組み

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、新しい生活様式に合わせた働き方に対する当社内の環境整備を進めています。

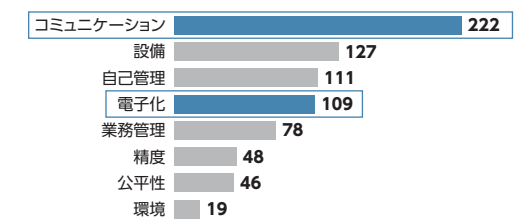
従業員の安全を考慮したテレワーク導入のため、インフラ整備や電子印の導入、契約書類の電子データ化移行を実施しました。

本部スタッフを始め、営業、研究開発のメンバーまで幅広く在宅勤務が可能な環境が整っています。

また、コロナ禍での従業員アンケートで課題として多くあがった「コミュニケーション不足」に対応するため、労働組合が主体となり、オンライン懇親会の費用補助を行うなど活性化に向けた取り組みを実施しています。

Q. テレワークに関して、改善が必要なポイントや効果的な実施のための課題は何か

(自由記述、複数回答／上位8回答)



従業員の健康と働きがい

健康的に能力を最大限発揮でき、 多様な人材が長く働き続けられる環境づくりを進めています



ノーリツ健康宣言

社員が心身ともに元気で、持てる力を最大に発揮することで、新たな価値を生み出し、持続的な成長を図れるよう健康経営を推進していきます。

- 社員一人ひとりが自分の健康づくりを意識し、その維持・促進を図れるよう会社・健康保険組合・労働組合が一体となり支援・サポートします
- 公私の充実と生産性の向上の両立実現に向け、社員一人ひとりにあった働き方を実現できるよう、制度や環境を整備し、風土改革に努めます
- 「新しい幸せを、わかすこと。」を使命とし、人と地球の笑顔に向けて暮らしの感動をお届けします

ミッションである「新しい幸せを、わかすこと。」を達成する原動力は、全ての従業員の幸せであり、従業員の心身の健康は働く力の源であると考えています。この考え方のもと、「ノーリツ健康宣言」を行い、従業員一人ひとりが心身ともに元気で、持てる力を最大に発揮できるように取り組んでいます。

健康保険組合や労働組合と連携し、人間ドックの受診促進、特定保健指導や禁煙支援の取り組みを実施しています。また、健康に対する意識向上や業務上かかりやすい疾患の予防を目的に、当社の業務を確認したうえで理学療法士が考案した、毎日簡単にできる独自の「ノーリツわくわく体操」などを実施しています。



Voice | 自分たちでノーリツを変えるチャンス「トライアル制度」

トライアル制度は、「自分たちでノーリツを変えるチャンス」だと感じ、手をあげました。当社では、従来からアイデアを発言する場面は多く設けられていますが、当制度は、そのアイデアを具現化していくため、専任で従事でき、ゴールに向かって進んでいくことができるという点が大きく異なります。取り組みに対しては、資金面を含め、経営者のバックアップも万全で期待されていると感じます。その思いに応えるため事業化に向け精進しています。

弘中 睦己

株式会社ノーリツ
研究開発本部
蓄熱商品開発部

近藤 勲

株式会社ノーリツ
研究開発本部
要素技術研究部



サステナビリティ

Sustainability

Governance

ガバナンス

透明性が高く健全な企業経営

私たちは公平・公正を意思決定の基本とし、透明性ある情報開示に努め、社会からのゆるぎない信頼を築いていくことを、大切な価値観 (Value) に掲げています。コーポレートガバナンスの充実を経営の最重要課題の一つであると認識し、経営環境の変化に対応しながら健全性および透明性を高めるとともに、意思決定の迅速化や経営判断の最適化を図っていきます。



取締役会の独立性と客観性の強化およびコーポレートガバナンス体制の充実

■ 指名諮問委員会・報酬諮問委員会の構成

委員長



社外取締役



社外有識者



社内取締役

当社は、監査等委員会設置会社によるコーポレートガバナンス体制を採用しています。(取締役9名のうち独立社外取締役を3名選任。取締役会の3分の1が独立社外取締役、うち1名女性。)

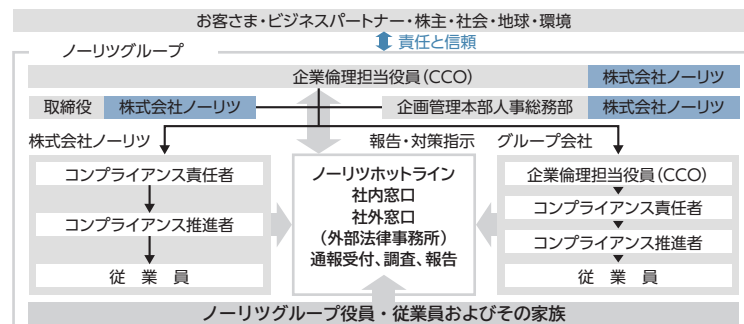
さらに、取締役会の独立性と客観性の強化およびコーポレートガバナンス体制を一層充実させることを目的として、取締役会の任意機関である指名諮問委員会および報酬諮問委員会を設置しています。

2020年の指名諮問委員会では社長交代および、監査等委員を含む社外取締役選任候補者などの経営体制の審議を行いました。また、報酬諮問委員会では役員報酬体系の見直しを行いました。

コンプライアンス — コンプライアンス意識向上

行動基準を通じて、「正しい行動」についての価値観を共有し、グループ全体でコンプライアンス意識の維持・向上を目指しています

コンプライアンス推進体制図



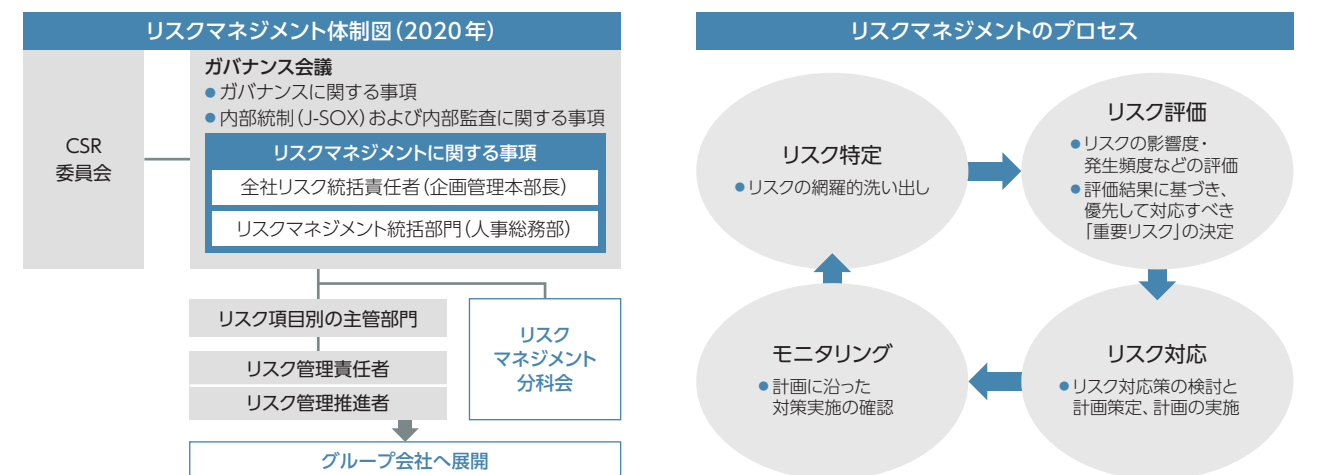
コンプライアンスを「法令、定款、社内規程および社会規範なども含めた『企業倫理』の遵守」と定義し、「ノーリツグループ行動基準」を定め遵守の徹底を図っています。

また、コンプライアンス違反行為の予防および、早期発見を図るとともにコンプライアンスに関する問題の顕在化と解決を目的として、ノーリツグループ役員、従業員とその家族が利用できる内部通報制度「ノーリツホットライン」を設置しています。

リスクマネジメント — リスクマネジメントの進化・安定供給

コロナ禍の影響を踏まえ、リスクマネジメントをさらに進化 サプライチェーンリスクなどにも対応し、体制を強化していきます

ガバナンス会議内で「リスクマネジメントに関する事項」を審議し、その結果をCSR委員会で最終審議しています。継続的なリスクマネジメントを行うためPDCAサイクルによるマネジメント活動を実施し、国内のグループ会社へ展開しました。今後はリスクを定量化することで優先順位を見える化し、さらなるリスクマネジメント強化に向けた仕組みを構築していきます。



■ リスクの特定とその取り組み

ハザードリスク	① 自然災害 ② 事故・故障 ③ パンデミック ④ サプライチェーン
オペレーショナルリスク	① 製品・サービス(品質) ② 生産設備トラブル ③ 施工・サービスの不良 ④ IT・情報セキュリティ ⑤ 法務・倫理(腐敗防止) ⑥ 知的財産 ⑦ 労務人事 ⑧ SNS など社会の風評被害 ⑨ 経営層の事故など ⑩ 環境有害物質 ⑪ 建物設備の老朽化など ⑫ 財務・経理
戦略リスク	① 投資 ② 組織 ③ IR ④ 気候変動対応 ⑤ 生産技術革新 ⑥ 原材料などのコスト高騰 ⑦ 市場・マーケティング ⑧ 為替変動などの経済状況 ⑨ 保有有価証券価格の変動

■ 新型コロナウイルス感染拡大防止の対応

2020年1月下旬に対策本部を立ち上げ、社員の感染拡大防止対応を実施しました。グループ会社社員を含め、マスクや消毒液の支援、出張禁止や手洗い・うがいといった基本予防策の徹底など、世の中の状況に合わせて随時実施しています。また、Web会議やテレワークの推進といったIT関連の整備も実施し、4月には全社でテレワークを一斉導入しました。今後も社員の安全確保と事業継続に向けた対応を実施していきます。

Voice | コンプライアンス意識の向上

社会の要請と期待を認識し、コンプライアンス違反による企業価値の低下を防ぐことが重要な役割です。従業員にも関心を持ってもらうために、ゲーム形式や、日常の些細なコンプライアンスに関する出来事を事例にしたコンテンツを配信、また「ノーリツグループ行動基準」を作成し、浸透を図る活動を行うことでグループ従業員全員の意識の向上に努めています。今後も課題解決に向け、コンプライアンス意識の浸透した働きやすい、違反リスクの低い職場環境・企業風土づくりに貢献していきます。

甲斐 真依子

株式会社ノーリツ
企画管理本部
人事総務部
総務法務グループ

